

分科会：日本の社会課題解決に挑む革新的ビジネス

2/10 12:40-14:10

### 3. 地方創生

鎌倉投信株式会社取締役資産運用部長 新井和宏氏

仙台市役所経済局産業政策部地域産業支援課企業支援係起業支援担当主任 白川裕也氏

飛騨信用組合 常勤理事 総務部長 古里圭史氏

モデレーター：一般社団法人 MAKOTO 代表理事 竹井智宏氏



※左から新井和宏氏、白川裕也氏、古里圭史氏、竹井智宏氏

2日目午後の分科会3「地方創生」では冒頭、登壇者より各人の取組みについての紹介があった。新井氏は、鎌倉投信を通じて2010年頃からサステナブル投資を行っている。白川氏は被災企業への融資を通じた経験から、地域における起業家の重要性に気づき、東北一円の活性化を目指した起業家アクセラレーションプログラムを手掛けている。古里氏は、人口減少により市場が縮小する中、地域で長期的に事業を育てる金融としての飛騨信用組合の取組み・さるぼぼコインなど、地域の一員としての金融商品の提供を主眼とするCSV経営を紹介した。ファシリテータの竹井氏は、ベンチャーキャピタルを辞め、日本初の売上支払い型ファンド・倒産した人だけを対象とした再チャレンジ特化ファンドを運営している。融資以上、IPO未満の領域に空いた穴を埋めるべく信用づけに役割を果たしたいと語った。

※次ページにつづく



### 地域における社会的インパクト投資

ディスカッションでは、地域での社会的インパクト投資について語られた。地域は、東京とは全く異なる生態系であり、お金をビジネスに供給する仕組みの選択肢が少ない。多くの人の想像以上に傷んでおり、銀行の置かれた状況も厳しい。そうした中で、どのように生産性と利益率を上げイノベーションを起こすかという発想で、起業家を増やすことに注力しているとのコメントがあった。地域において、ヒト・モノ・カネが回る流れをどう作るかがポイントである。さらに地域では雇用創出だけでも大きなインパクトで社会的価値を持つこと、また地域の密な人間関係の中で社会性の評価指標づくりには大いに悩むことなどが語られた。

フロアとのやり取りでは、ベンチャーキャピタルの立場から、お金を出してもエコシステムができてないなか、どのような支援が必要かとの質問に対し、登壇者からは地域はないものだらけで、様々なステージにおいてやるべきことをやっておらず何をやったら良いのかも分からない。労力がかかるが、お金だけでなくそうした起業家へのアドバイスできる人材が足りないので、お金と人材をマッチングする支援が必要ではとの回答があった。また事業成果をマネジメントする観点から評価を活用していく意向があるか、というフロアの質問に対しては、数値化するのに道のりが長すぎるので事業成果よりもむしろ企業風土、文化、雰囲気の数値化に関心がある、また定性的な部分の掘り下げに関心があるなどの回答があった。また新井氏からは、障害者雇用の事業について数字を使うことにより取引先の客の説得など勝算があるので評価を行っている、竹井氏からは事業評価は行わないが経営者の資質や志基準の評価を行うとの回答があった。

以上